

先天色覚異常と後天色覚異常の鑑別

参考)北原健二:視能学 P82他
渡邊郁緒他:イラスト眼科第6版 P61

種類	先天色覚異常	後天色覚異常
病態	疾患であり、正常と質的に異なる	ある疾患の一症状であり、正常からの量的低下
遺伝性	1・2型 青錐体1色型 3型 杆体1色型 緑・赤錐体1色型 } X連鎖劣性遺伝 常染色体優性遺伝 常染色体劣性遺伝 不明	なし
予後	停止性	原疾患により憎悪又は軽快
左右差	両眼性 差がでない	一眼のみの障害もあり 差があることが多い
異常の自覚	自覚していない(ことが多い)	色の見え方の変化を自覚することが多いが必ずしもそうではない。 経過、症状に応じて程度が変化する
障害されやすい色	型によって規則的	特定の視細胞が障害されることはまれであるが、特に青錐体系反応が障害されやすい
その他	他の視機能は正常 (杆体1色型は除く)	視力や視野など他の視機能障害が見られることがあるが、視力との相関関係はない。
分類	異常の型がはっきり分類できる	赤緑異常と青黄異常が常に混在し、軽度は正常との区別が困難
原因となる主な疾患	先天性	脈絡膜疾患・視神経疾患・視交叉部より中枢の障害